

— 東京理科大学 —

2月6日 B方式 英語

解答・解説

1

- (1) 1 (2) 1 (3) 4 (4) 2 (5) 2 (6) 4 (7) 3 (8) 4 (9) 1
 (10) 1 T 2 T 3 F 4 T 5 T 6 T

- (1) [1]段落第2文 the computer を指している。この文の主節の目的語に相当するのが、all of the grammatical rules of English から文末まで。「それらをコンピューターの中にプログラムする…」といった内容。そして下線部(1)を含む文・主節が「それ(=つまりコンピューターに)文を与えて、対象となる言語の対応する文を作る(訳す)ように促す」といった意味に。
- (2) 下線部(2)が「単語は、それぞれの語が対応する辞書的な定義に(単純に)変換できないし、言語というのは、規則の数と同じくらい多くの例外を持っているものだから」選択肢1が「言語というのは、定義と規則だけでとらえることはできないので」
- (3) as well as…「…と同じくらい上手に」文全体は「数学やチェスと同じくらい、“一般的知能”を表す活動は存在しない」
- (4) 下線部(4) remotely は、否定文で「ほんのわずかも…ない」といった全否定の意味になる。選択肢2 far from…「決して…でない」
- (5) the ground up と the top down が対比的に書かれている。the top down とは、計画・説明などが【全体的な把握→細部に至る】方式。the ground up がその逆と考える。
- (6) 下線部(6)it can remove distinct patterns に対応するのが選択肢2と4の the brain can separate clear patterns、下線部(6)but 以下 ambiguity と something unclear がほぼ同意と判断。
- (7) 下線部(7)中の挿入句 on a guided trail-and-error basis と選択肢7-bの feedback が対応。numerical は「数の、数的な、数に関する」という意味の形容詞。
- (8) artificial intelligence 「人工知能」とは、選択肢4「人間の脳のモデル化を目指す方法」
- (9) sensory perception 「感覚認知」 motor control 「運動制御」
- (10) 1 [1]段落第3文～最終文までの内容と一致。
 2 [2]段落第2文の内容と一致。end は「部門、部署、一方の側」
 3 [3]段落最終文の内容と不一致。
 4 [4]段落第2文の内容と一致。
 5 [5]段落第1文の and から後 in 1943 以降の内容と一致。
 6 [6]段落最終文の内容と一致。

2 左から(a)→(g)の順に

- (1) 1→7→4→5、6→3→2 (2) 5→2→6→4→1→3
 (3) 4→6→2→7→3→1→5 (4) 6→4→2→5→7、3→1

- (1) given the uncertainty of the global economy 「世界経済は不確かであることを考慮すると」 leave～with… 「～に…を任せる、委ねる」 the investor was not left with many options 「その投資家に、多くの選択肢はなかった」
 (2) 間接疑問文の疑問詞 what が文頭に出た形。文全体は「禁煙環境に向けたこの運動が起きた理由は、何だと思いませんか？」 account for 「〈物・事が〉〈出来事・現象など〉の原因となる」
 (3) as in past decades 「過去数十年間と同様に」 as は接続詞【様態】の意味で用いられている。as 以下主節と同一の the birthrate continued to decline が省略されている。
 (4) 述語動詞が現在完了進行形になっている。negotiate with… 「…と交渉する」

3

1 F 2 T 3 F 4 T 5 F 6 T 7 F 8 F

- 1 Keita のメールの日付が 2018 年 5 月 25 日とあり、その文中・第 1 段第 3 文 We met last month... とあるので、会ったのは May ではなく April だと分かる。
 2 Keita のメール第 2 段第 4 文に、Keita が Castle Rock University に行く旨・目的が書かれている。
 3 John のメール第 2 段最終文に締め切りが「6 月 10 日」とあり、選択肢 3 by the end of June 「6 月の終わりに」と矛盾。
 4 John のメール第 3 段の内容から。grant は「奨学金、助成金」同段最終文の only が否定のニュアンス。「旅費しかカバーできない」→勧めていないと判断。
 5 こちらも John のメール第 3 段。言及されていない。
 6 John のメール第 4 段第 1 文の内容と一致。
 7 6 と同じ箇所が根拠。言及されていない。
 8 John のメール最終段最終文の内容から。by the end of June 「6 月の終わりに」選択肢 8 at the beginning of July 「7 月の初めに」と矛盾。

総評

1 長文読解総合問題

昨日の理学部と同様、内容的に難しい英文でした。ただし長文問題は1題なので、しっかり時間を費やして(30分以上かけられるはず)、落ち着いて正解への根拠を見出して少しでも正答率を上げていきたいところ。語彙力でカバーできる問題も多々あります。

2 整序英作文

他の大問に比べれば易しいですが、(1)あたりは少々悩みそう。そこで停滞せずに、後回しにして先に(2)(3)(4)といった問題に対処するといったことも必要か。

3 会話文内容一致問題

4が微妙かな…とは思われるが、他はT/Fの根拠が見出しやすいです。ある程度時間を確保して、しっかり得点を稼ぎたい。

～全体を通して～

比較的易しい大問2 3において、それぞれ先述の1問(大問2が1・大問3が4)のミスで切り抜けてほしいところ。大問1は文章の内容の難易度が高いので辟易しそうなところだが、設問自体は知識(具体的に言えば語彙力)で乗り切れるものが多いので、全体で7割正解くらいで乗り切れれば良いでしょう。

3

2月7日(木) 追記

1 解説の通り、メールが書かれたのは4月なので、1のMay「5月」は誤りです。Tとしたのは「F」とすべきで、タイプミスです。訂正します。解説については既存の通りといたします。